

3 災害ボランティア等について

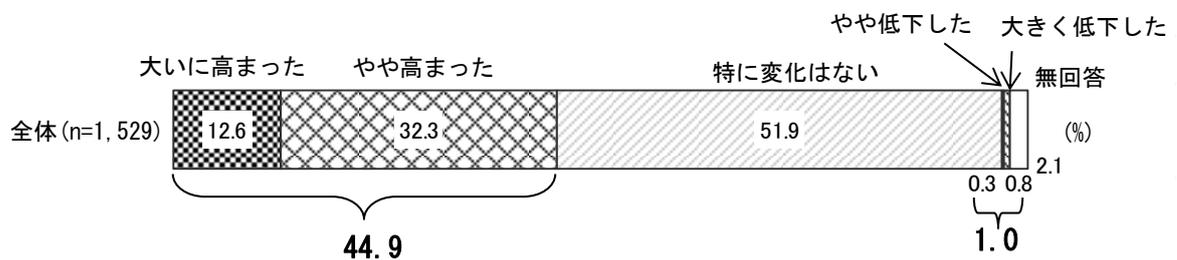
(1) 市民活動団体の活動やボランティア活動への関心度

◇『高まった（計）』が4割台半ば

県では、県民活動推進計画に基づき、市民活動団体の活動やボランティア活動など県民活動への理解や参加の促進を図っており、今後の取組推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問23 あなたは、令和元年房総半島台風等、令和元年に本県で発生した一連の災害を通じて、市民活動団体の活動やボランティア活動への関心が高まりましたか。（○は1つ）

<図表3-1>市民活動団体の活動やボランティア活動への関心度



市民活動団体の活動やボランティア活動への関心度について、「大いに高まった」(12.6%)と「やや高まった」(32.3%)を合わせた『高まった(計)』(44.9%)が4割台半ばとなっている。

一方、「やや低下した」(0.3%)と「大きく低下した」(0.8%)を合わせた『低下した(計)』(1.0%)は1割未満となっている。(図表3-1)

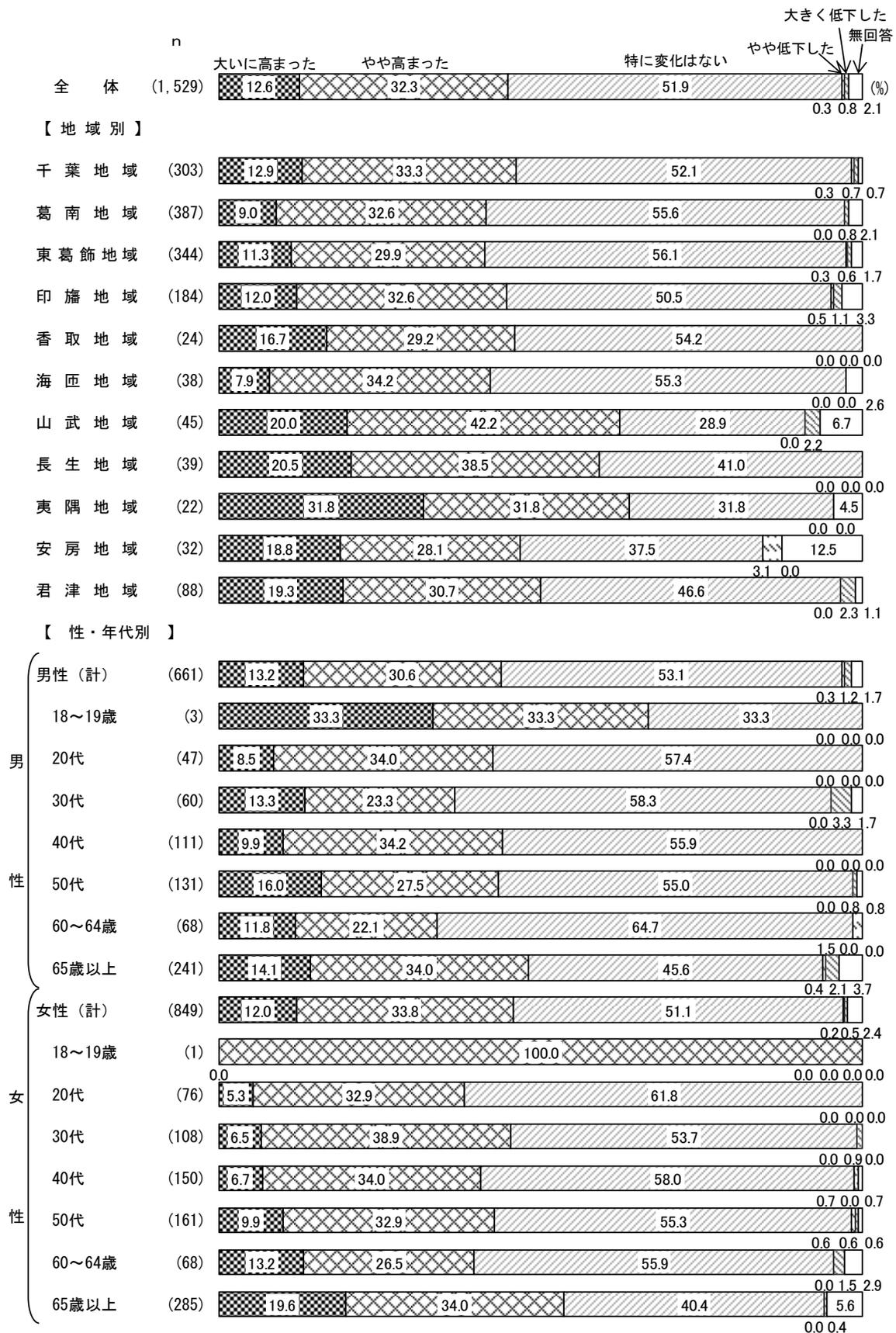
【地域別】

地域別にみると、『高まった(計)』は“山武地域”(62.2%)が6割を超えて高くなっている。(図表3-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『高まった(計)』は女性の65歳以上(53.7%)が5割台半ばで高くなっている。(図表3-2)

＜図表3-2＞市民活動団体の活動やボランティア活動への関心度／地域別、性・年代別



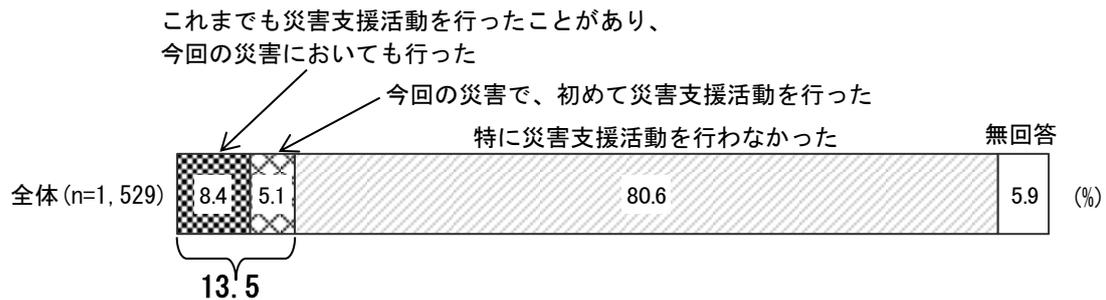
（2）令和元年に県で発生した一連の災害での災害支援活動の参加経験

◇『今回の災害で行った（計）』が1割台半ば

問24 あなたは、令和元年房総半島台風等、令和元年に本県で発生した一連の災害において災害支援活動を行いましたか。（○は1つ）

（※）ここでいう「災害支援活動」とは、ボランティア活動への参加、被災した親戚・知人に対する支援、近隣被災住宅の片付け、自治体や市民活動団体への寄附、物資の提供など、広く被災者・被災地への支援を指します（以下の設問でも同様）。

＜図表3－3＞令和元年に県で発生した一連の災害での災害支援活動の参加経験



令和元年に県で発生した一連の災害での災害支援活動の参加経験を聞いたところ、「これまで災害支援活動を行ったことがあり、今回の災害においても行った」（8.4%）と「今回の災害で、初めて災害支援活動を行った」（5.1%）を合わせた『今回の災害で行った（計）』（13.5%）が1割台半ばとなっている。

一方、「特に災害支援活動を行わなかった」（80.6%）は8割となっている。（図表3－3）

【地域別】

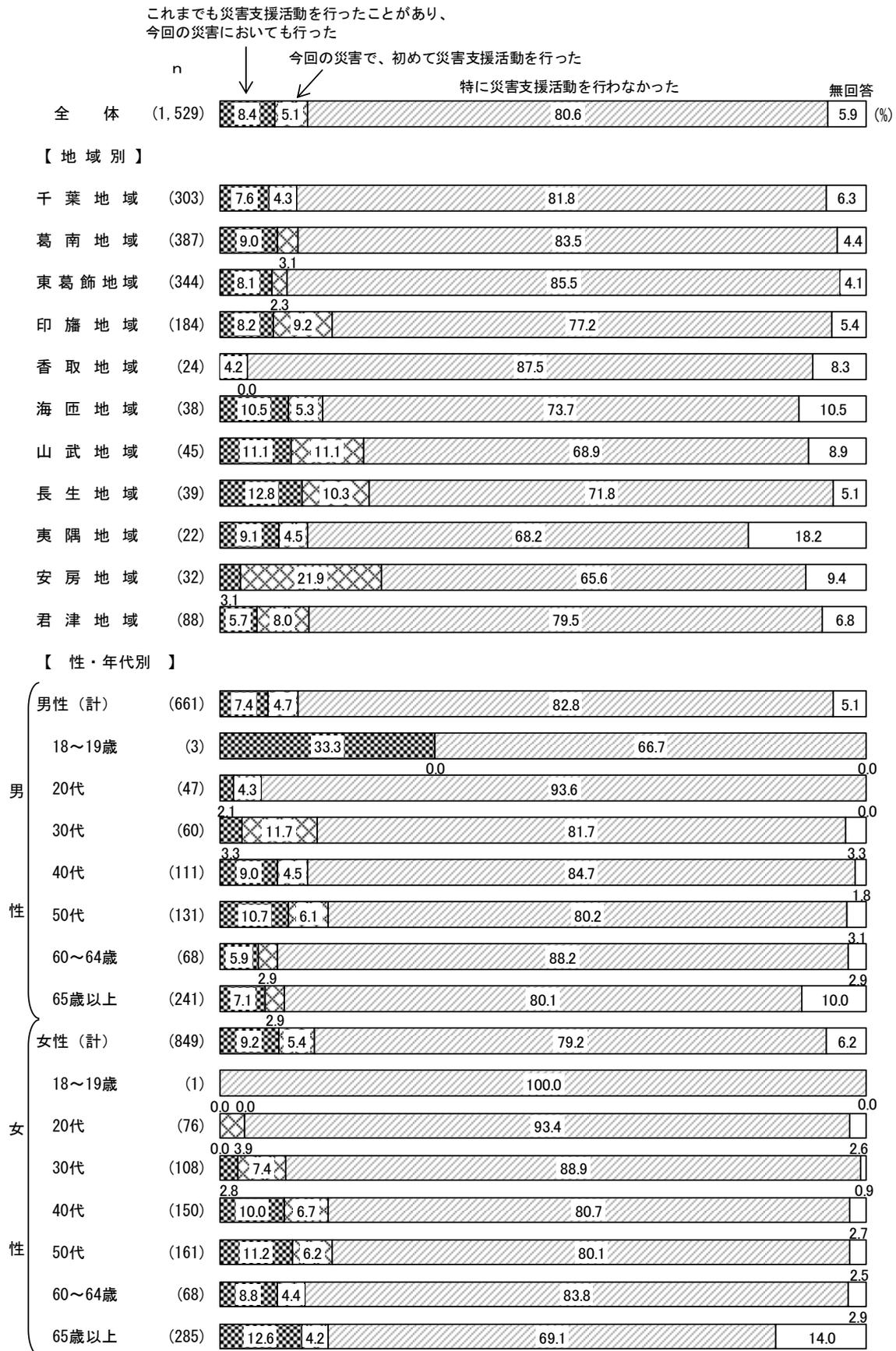
地域別にみると、「特に災害支援活動を行わなかった」は“東葛飾地域”（85.5%）が8割台半ばで高くなっている。（図表3－4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「特に災害支援活動を行わなかった」は男性の20代（93.6%）が9割台半ば、女性の20代（93.4%）が9割を超え、女性の30代（88.9%）が約9割で高くなっている。

（図表3－4）

<図表3-4>令和元年に県で発生した一連の災害での災害支援活動の参加経験／地域別、性・年代別



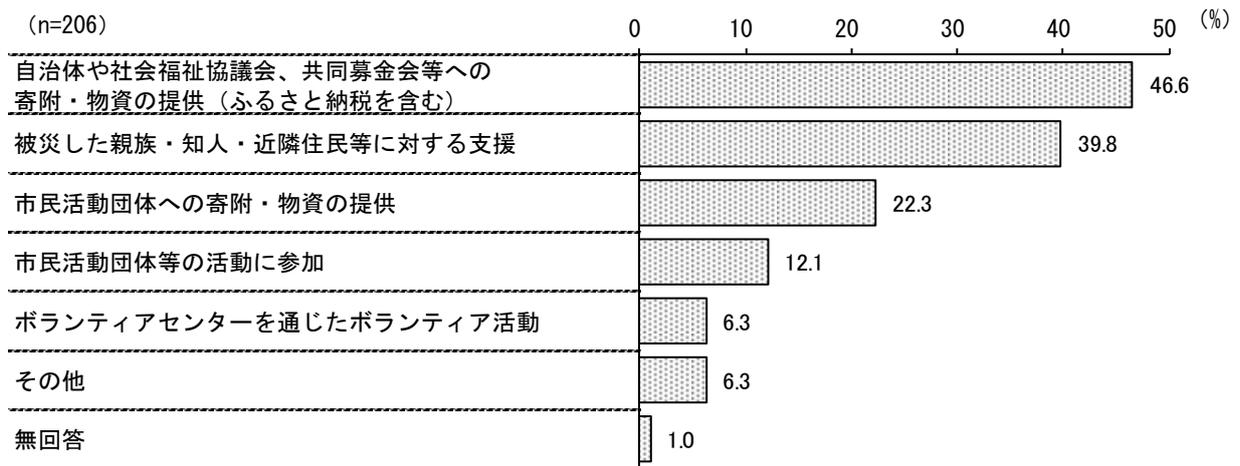
（2-1）参加した災害支援活動の内容

◇「自治体や社会福祉協議会、共同募金会等への寄附・物資の提供（ふるさと納税を含む）」が4割台半ば

（問24で「これまでも災害支援活動を行ったことがあり、今回の災害においても行った」、「今回の災害で、初めて災害支援活動を行った」とお答えの方に）

問24-1 支援活動の内容はどのようなものでしたか。（〇はいくつでも）

<図表3-5>参加した災害支援活動の内容

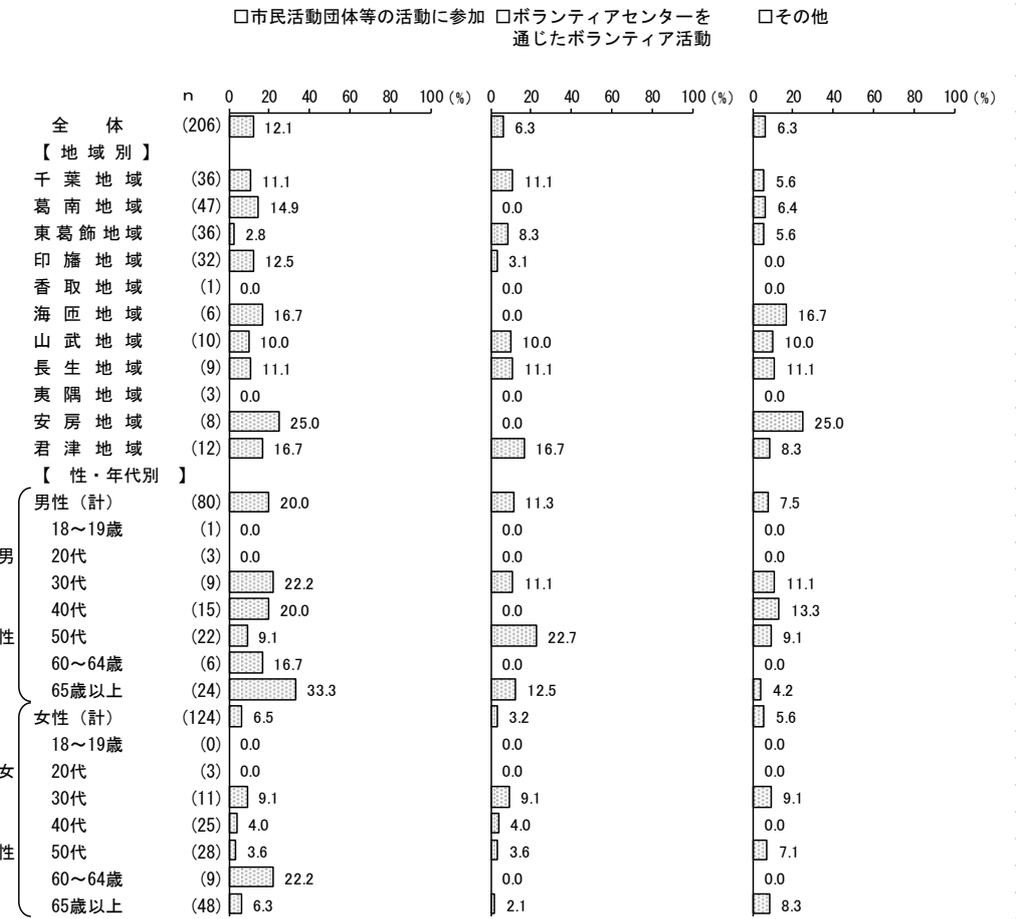
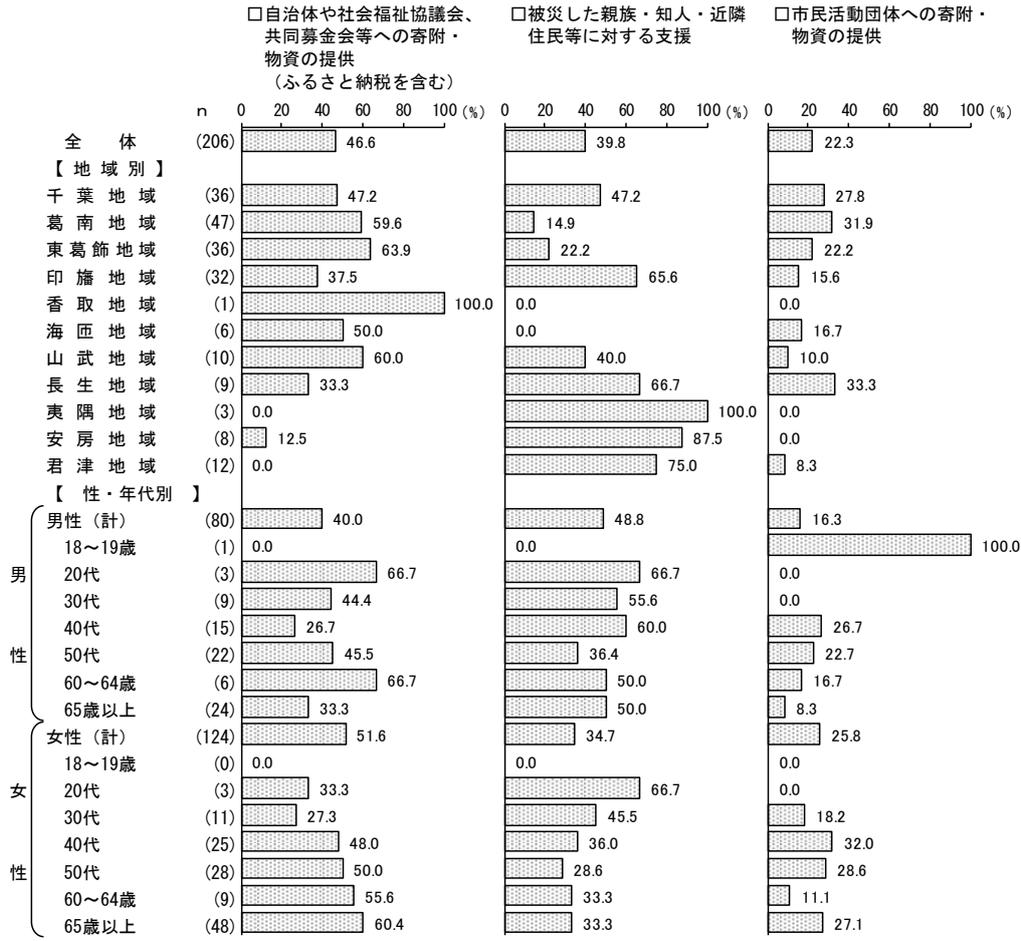


参加した災害支援活動の内容について聞いたところ、「自治体や社会福祉協議会、共同募金会等への寄附・物資の提供（ふるさと納税を含む）」(46.6%)が4割台半ばで最も高く、以下、「被災した親族・知人・近隣住民等に対する支援」(39.8%)、「市民活動団体への寄附・物資の提供」(22.3%)が続く。(図表3-5)

※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。

(8ページ「報告書の見方(6)」を参照)

＜図表3-6＞参加した災害支援活動の内容／地域別、性・年代別

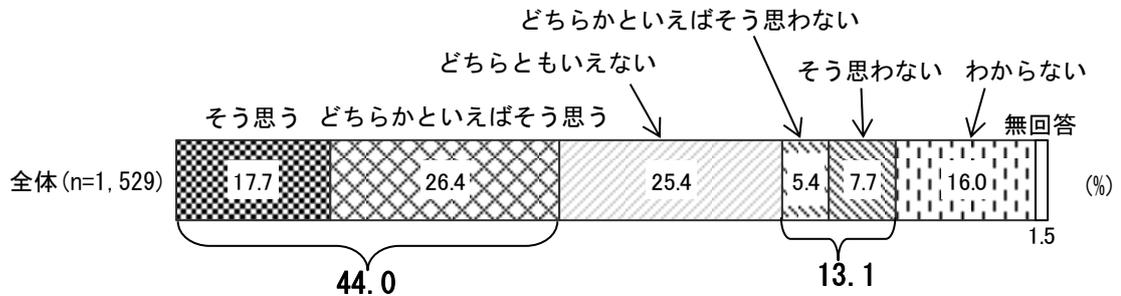


（3）今後の災害支援活動への参加意向

◇『そう思う（計）』が4割台半ば

問25 今後、災害が発生した際（県外での発災も含む）に支援活動を行いたいと思いませんか。
（○は1つ）

＜図表3-7＞今後の災害支援活動への参加意向



今後の災害支援活動への参加意向について、「そう思う」（17.7%）と「どちらかといえばそう思う」（26.4%）を合わせた『そう思う（計）』（44.0%）が4割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（5.4%）と「そう思わない」（7.7%）を合わせた『そう思わない（計）』（13.1%）が1割を超えている。（図表3-7）

【地域別】

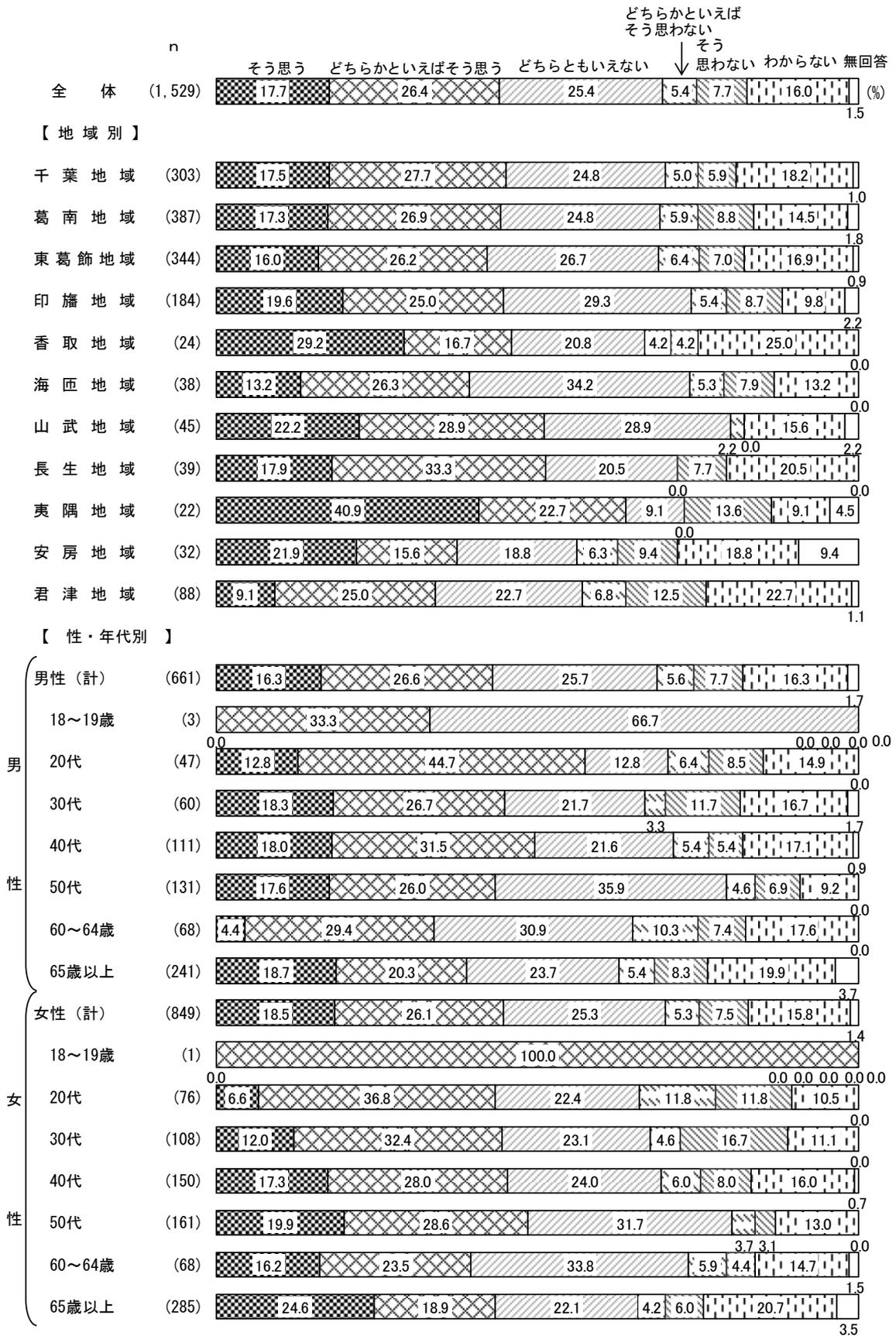
地域別にみると、「そう思う」は“夷隅地域”（40.9%）が4割で高くなっている。

（図表3-8）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思わない（計）』は女性の20代（23.7%）が2割台半ば、女性の30代（21.3%）が2割を超えて高くなっている。（図表3-8）

<図表3-8> 今後の災害支援活動への参加意向／地域別、性・年代別



このほかに、「災害ボランティア等について」やここまでの質問（問23～問25）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、171人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「災害ボランティア等について」の自由回答（抜粋）

- 令和元年房総半島台風は、屋根がわら等、大工やかわら職人を要する被害の為、ボランティア等の募集も難を要したと思う。今後とも募集にあたっては、詳細を詰めて募集にあたることも考えられる。
(男性、65歳以上、君津地域)
- 専門的な技術者などは有償ボランティアとして県や国が派遣する体制を整えるべきと思う。例えば、住宅被害の復旧などでは、高所作業ができる建設業者など。
(女性、65歳以上、千葉地域)
- 災害ボランティア活動の特別休暇となるような制度を整えて欲しい。現状では欠勤になってしまい参加することが難しい。
(女性、40代、葛南地域)
- できることを支援したいとは思っているが、現地まで行き活動するのは仕事があるので難しい。
(女性、40代、東葛飾地域)
- どこでどのような支援を必要としているかがわからないと行動できにくい。
(女性、20代、千葉地域)
- 動画などで、どの様な事が行われているのか、知りたい。HP見て、文章で記されていてもあまり見よう、知ろうという気にならない。
(女性、30代、葛南地域)
- ボランティアをしたい気持ちはあるのですが現場で足手まといになってしまうのではと思い、参加する勇気が出ません。中年女性でもできることはあるのでしょうか？
(女性、40代、葛南地域)
- 災害ボランティアに関して、参加できればやりたいと思いますが、何が出来るかがわからず一歩が踏みません。特にコロナ禍の中だと寄付金などしか行動出来ませんでした。
(女性、40代、千葉地域)
- ボランティアや物資の寄附など、分かりやすくしてもらえると行動に移しやすいと思います。したい気持ちがあってもどうしたら良いか分からない為、市や県からネットやメールでもらって、場所の指定など知りたい。
(女性、40代、印旛地域)